

St. Luke's International University Repository

A serpent (snake) & rod (cane) as the symbol for medicine

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 千野, 静香, Chino, Shizuka メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00014833

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



— 報 告 —

医学医療のシンボルマークとしての蛇杖

千 野 静 香¹⁾

要 旨

私は、聖路加に入学した時から聖路加のシンボルマークである、棒に絡まった蛇に関心をもっていた。今回は、なぜ蛇がシンボルとして使われているのかのルーツをキリスト教の聖書と、古代ギリシャの神話の2つの視点から解明を試みた。

旧約聖書民数記21章8～9節には「すると主はモーセに仰せられた。あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけよ。…」と記され、新約聖書ヨハネの福音書3章14～16節には「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは信ずる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。…」とあり、旧約聖書の「青銅の蛇」こそ新約の「十字架」につけられたキリストの象徴と考えられる。

一方、ギリシャ神話では、医術・医学の神アスクレピオスの杖には、一匹の蛇が絡まり、健康・不老・長寿・不死などを象徴している。また、アスクレピオスの叔父にあたるヘルメスは、商業、通信、交通などの神で、その杖には2匹の蛇が絡まり、幸福・平和などを象徴している。

さて、聖路加のシンボルマークの「青銅の蛇」は、2匹の蛇が棒に絡まっていて、そのルーツは、さだかでない。しかし、蛇の数を問題にするのではなく、蛇杖の意味を知ることが大切ではなかろうか。

キリスト教精神に基づいて立てられた聖路加国際病院、聖路加看護大学は、病院の屋上に輝く大シンボルマークの十字架を仰ぎみ、主のご愛にこたえていかなければならないと思う。聖路加国際病院の創設者、Dr. R.B.トイスラーは「この病院は、人々が病苦にあった時、その苦痛をとり除くため、キリストの愛の力をもって癒すべく生き生きと働くところである」と述べ、チャペルの入口には、この師のことばと写真とが掲げられている。

I. はじめに

欧米諸国の病院には医学のシンボルマークとして蛇が使われている。聖路加国際病院にも、病院の庭園、建築物の外壁の上部そして看護大学の屋上部の外壁に棒に絡まった蛇のマークがついているのを見る。(写真1, 2, 3) なぜ蛇がシンボルとして使われているのか。そのルーツを二つの視点からみることができる。

一つはキリスト教の教典である聖書、特に旧約聖書の記事からであり、もう一つは古代ギリシャの神話からである。

II. 本 論

1. 聖書の記事から見た「青銅の蛇」

旧約聖書、民数記21章8～9節にはこう書いてある。「すると主はモーセに仰せられた。あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけよ。すべて、かまれた者

は、それを仰ぎみれば生きる。モーセは一つの青銅の蛇を作りそれを旗ざおの上につけた。もし蛇が人をかんでも、その者が青銅の蛇を仰ぎみると生きた。」

この出来ごとは、イスラエルの民がエジプトの束縛から救い出され、神の与え給うた約束の地をめざして荒野の旅を続けた時のこと。荒野には食べるものもなく、悲

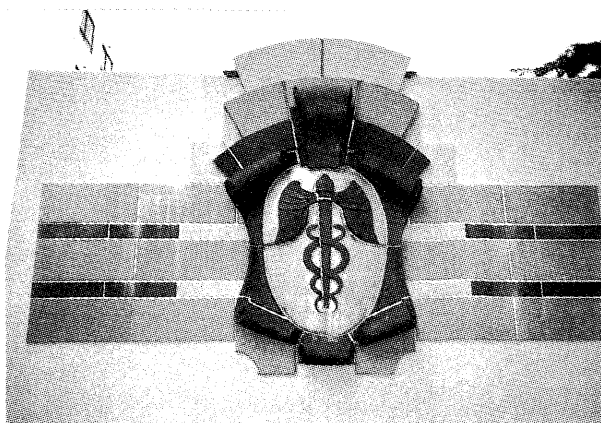


写真1 聖路加病院庭園の蛇紋（シンボルマーク）

1) 元埼玉県立衛生短期大学教授

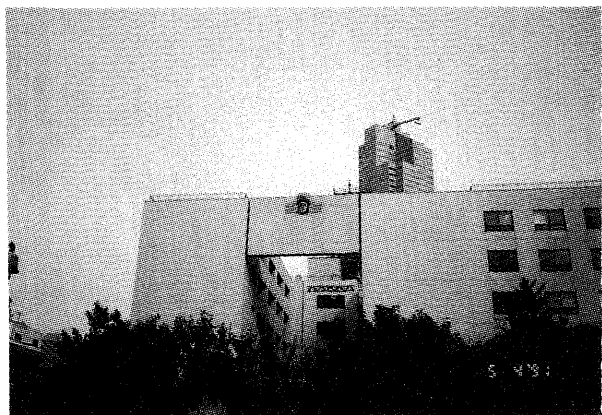


写真2 聖路加看護大学の蛇紋（シンボルマーク）

惨な状態であった。そこで、民は神とモーセに逆らって「なぜあなたがたは、私たちをエジプトから連れだし、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。私たちはこのみじめな食物に飽きあきました。」（民数記21章5節）と不平不満をぶちまけた。

「そこで、主は民の中に燃える蛇を送られたので蛇は民にかみつ、イスラエルの多くの人々が死んだ。民はモーセのところに来て言った。『私たちは主とあなたを非難して罪を犯しました。どうか、蛇を私たちから取り去ってくださるように、主に祈って下さい。』モーセは民のために祈った。」

すると、主はモーセに仰せられた。『あなたは燃える蛇を作り、旗ざおの上につけよ。……』（民数記21章7節）。

モーセは主の仰せの通り一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上につけて民のなかに立てた。この青銅の蛇を仰ぎみると蛇にかまれた者は生きかえったのである。昔のイスラエルの経験においては肉体の癒しとあがないは一貫したものだったようである。こうして、イスラエルの民は旅立ってオベデで宿営することができたと聖書に書いてある。

この物語が教えていることは「青銅の蛇」は神の命令に従ってモーセによって造られたものであったが、金属である蛇自体に救う力があつたのではなく、その効果を引き出したのは主の癒しの約束のこゝろばを信じて仰ぎみたる者の信仰の力が、死の毒を免れさせたということである。

当時のパレスチナの人々にとって、毒蛇は決して珍しいものではなかったようである。

今日でもパレスチナ地方には多くの毒蛇が生息しているといわれている。

この毒蛇に咬まれると、その毒素のために灼熱的な高熱を出し、苦痛に悩まされると言われている。

モーセによって造られた「青銅の蛇」はその後長く保存され、次第に魔術的な力をもつものとして偶像視されたようであった。

しかし、後にヒゼキヤ王によってこの偶像的な信仰は

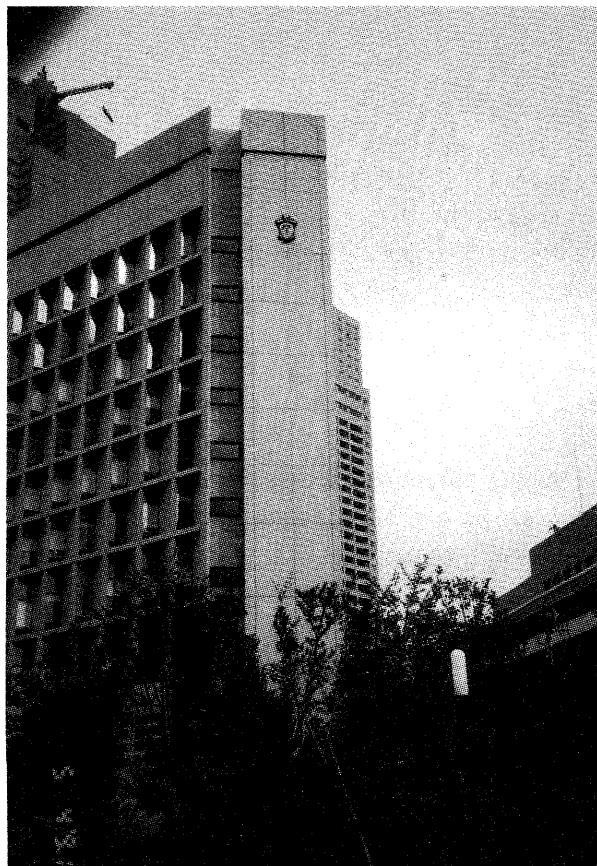


写真3 聖路加国際病院の蛇紋（シンボルマーク）

廃止されたと第Ⅱ列王記18章4節に書いてある。「彼らは高き所を取り除き、石の柱を打ちこわし、アシュラ像を切り倒し、モーセの作った青銅の蛇を打ち砕いた。そのころまでイスラエル人はこれに香をたいていたからである。これはネフシュタンとよばれていた。」紀元前715年頃のことである。

ところで、主の癒しの力については「青銅の蛇」の事件以前に出エジプト記15章26節に有名な箇所がある。「そして、仰せられた。『もし、あなたがあなたの神、主の声に確かに聞き従い、主が正しいと見られることを行い、またその命令に耳を傾け、そのおきてをことごとく守るなら、わたしはエジプトに下したような病気を何一つあなたの上に下さない。わたしは主、あなたを癒すものである。』」これは旧約聖書のなかでも有名な箇所である。

新約時代になって、イエス・キリストは「青銅の蛇」の故事を手がかりにして、ご自身が、人々の罪を負うために十字架にあげられなければならないことを述べている。「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは信ずる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。神は実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは、み子を信ずる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためです。」（ヨハネの福音書3章14節～16節）このようにキリストはわれわれの罪を負って

身がわりとして十字架にかかって死んでくださったのであるから救われるためには、キリストの十字架を信仰を持って仰ぎみ、罪のゆるしと、永遠の命をいただかなければならないのである。

こうして、旧約時代、新約時代の聖書の記事の関連を見ると旧約聖書の「青銅の蛇」こそ新約の「十字架」につけられたキリストの象徴と考えられる。

2. ギリシャ神話による蛇杖

ギリシャ神話によると医学の蛇杖として、アスクレピオスの杖とヘルメスの杖がある。

a. アスクレピオスは「ヒポクラテスの誓い」の冒頭に出てくるギリシャの医神アポロンの子である。
(アポロンは太陽神で、健康、音楽などの神である。)

アスクレピオスは医術、医学の神でその杖には、一匹の蛇が絡まり、健康、不老、長寿、不死などを象徴している(図1)。

医学のルーツを尋ね、ギリシャやローマ、エーゲ海や小アジアなどの旅を長年に渡って続けておられる、青梅市立病院院長の星和夫医師の旅行記(日本病院会雑誌1996. 2. P73)によると「アスクレピオスは半人半馬の怪物ケンタウルロスのケイローンに預けられ、山中で育てられたが、手の器用な賢者で医業の道にもたけていたので、彼はその教えを受け、後に名医になったのである。またアスクレピオスの一家は皆、医療に関係した神

様で、妻のEpioneーエピオーネは鎮痛、息子のMachaonーマカオンは外科、Podaleiriosーポダレイリオスは内科、娘のPanakeiaーパナケイアは全ての病気を癒す女神、Hygieiaーヒュギエイアは健康の女神、その他Akeso, Lasoなども治癒、健康の女神であった。病院などなかった古代、ギリシャでは、このアスクレピオスを祭った神殿が病院であったと言われている。」(図2、3)

当時の医術はもっぱら入浴、睡眠、安静、暗示療法などであったようである。それでも治った患者が多くいたようである。

b. ヘルメスはアポロンの腹違いの弟、アスクレピオスの叔父にあたり、商業、通信、交通などの神で、その杖には2匹の蛇が絡まり杖の頭に翼がついていることが多い。幸福、平和などを象徴している。

ヘルメスの杖はカデュセウスと呼ばれ、神の杖、聖者の杖、伝令使の杖などを意味しているといわれている。

世界の医学の切手の収集とその解説をされ「切手が語る医学のあゆみ」を著作された古川明医師(篠原病院院長)はその著書に次のように述べている。

「医学の紋章として、ヘルメスの杖が使われ始めたのはルネッサンス期で、今はアスクレピオスの杖と混同して、両者が使われている。

誤りの初めは、英国の出版社フローベが商標として2匹の蛇のついた杖を描いたことによると言われている。

1520年、英国ヘンリー八世の侍医バッツがヘルメスの



図1 アスクレピオス(文献 3)より



図2 医神アスクレピオスと娘のヒュギエイア。紀元前4世紀ギリシアの作品のローマ時代の模作。(ヴァティカーノ美術館)
(文献 5)より

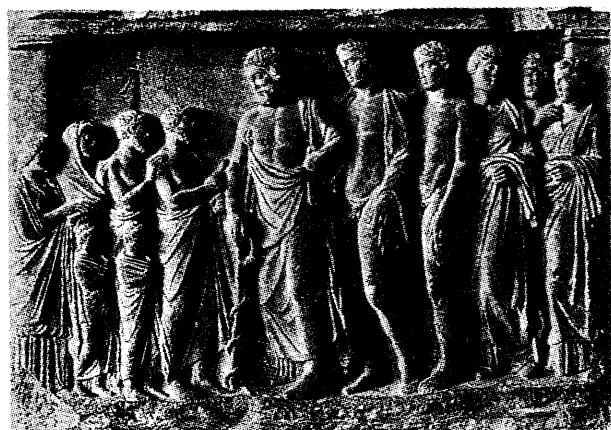


図3 アスクレーピオスとその家族（文献 5）より）

杖を自分の紋章とした。」

この2匹の蛇のデザインを利用したと思われるものに東京の一橋大学（旧東京商科大学）の校章がある。

又、1910年アメリカ医師会はアスクレーピオスの杖を紋章とした。

しかし、アメリカ陸軍軍医部がヘルメスの杖を紋章として軍属の服装に使用し始めたのは1856年であった。その理由は軍医部は非戦闘員で、その勤務は平和のためだから、平和のシンボルとしてヘルメスの杖を紋章としたということである。

医学関係の他の団体がこれにならい、その意味をとり違えて医学の紋章にヘルメスの杖を乱用していると古川明医師は書いている。

ちなみに、1969年カナダのオスラー（1849-1919）の切手にはアスクレーピオスの蛇杖が刻まれている（図4）。1964年メイヨ兄弟の生誕100年の記念切手の肖像のかたわらにはアスクレーピオスの蛇杖が添えてある。ノーベル医学生理学賞のメダルの裏にもアスクレーピオスの蛇杖が刻まれている。

さて、聖路加国際病院のシンボルマークの「青銅の蛇」も2匹の蛇が棒に絡まっている。そのルーツについては、さだかでないが、筆者の想像では、平和のシンボルとし

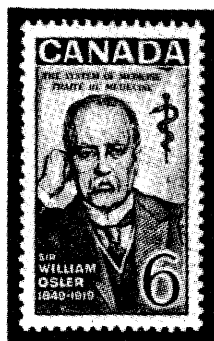


図4 オスラー（死去50年記念）
〔カナダ 1969, #495, A250〕（文献 6）より）



図5 WHOシンボル（蛇紋）

て、またヘルメスの杖が神の杖、聖者の杖、キリスト教司祭の杖を意味しているといわれていることなどから、2匹の蛇のデザインをとり入れてアレンジしたものではないかと思われる。

ちなみに、防衛医科大学の校章も2匹の蛇がデザインされている。

とにかく、長い歴史の過程で蛇杖は医学、商業、その他にもデザイン化されて使われているようにみえる。

なおWHOのシンボルマークは、図5の如く1匹の蛇である（図5）。

この際蛇の数を問題にするのではなく、蛇杖の意味を知ることが大切ではなからうか。

III. 結 論

キリスト教精神に基づいて立てられた聖路加国際病院、聖路加看護大学は、前記の聖書のことばの通り、「モーセが荒野で蛇を上げたように人の子もまた上げられなければなりません。」といわれたように、主は十字架にかけられ、我われの罪をあがなって下さったのであるから、聖路加病院の屋上に輝く大シンボルマークの十字架を仰ぎみ、主のご愛にこたえていかなければならないと思うのである。

ヨハネの手紙第1、3章16～18節はこうある。「キリストは私たちのためにご自分の命をお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは兄弟のために、命を捨てるべきです。……口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。」

聖路加国際病院の創設者、Dr.R.B.トイスラーは「この病院は、人々が病苦にあった時、その苦痛を取り除くため、キリストの愛の力をもって癒すべく生き生きと働くところである。」と言っている。

チャペルの入口には、この師のことばと写真とが掲げられている。

本稿のためにご指導、ご援助、特に資料等のご提供を頂いた、常葉恵子学長、上林三郎前病院事務局長、小澤道子教授に心から感謝いたします。

本稿の要旨は、第3回聖路加看護学会学術大会「話題提供」において発表した。

文 献

- 1) 新改訳聖書；日本聖書刊行会、1984.
- 2) 実用聖書注解 第1巻；いのちのことば社、1995.
- 3) 小川鼎三、酒井シヅ他：図説医学史、朝倉書店、1982.
- 4) 星和夫：医学のルーツを尋ねて（エーゲ海の島々）、日本病院会雑誌、1995.
- 5) カール・ケレーニィ、岡田素之訳：医神アスクレピオス、白水社、1997.
- 6) 古川明：切手が語る医学のあゆみ、525、医歯薬出版株式会社、1986.

A serpent (snake) & a rod (cane) as the symbol for medicine

Shizuka Tino

Many hospitals and medical institutions in Europ and U.S.A. have the symbol for medicine, which is designed with A Serpent and A Rod. St. Lukes Hospital and College of Nursing in Tokyo have same Symbols in their garden and buildings.

There are two way to find the route of the symbol. One is from the Bible and other is from the Greek Mythology.

1) According to the Old Testament (Number 21: 8-9) The Lord said to Moses, make a fiery serpent and set it upon a people and it shall come to pass, that if a serpent had bitten any man, when he beheld the serpent of brass, he lived.

In the New Testament said (St. John 3:14) "A Moses lifted up the serpent in the wildness, even so must the Son of man be lifted up" From these old and new Testament, I will think that the Moses brass serpent must be the model of the Jesus Christ on the cross.

2) In the Greek Mythology, there are two kind of the symbols (Emblems), one is The Asklepios Emblem which designed one serpent and one Rod, other is the Hermes Emblem, designed two serpent and one rod.

Commonly known the Asklepios as the symbol of medicine.

Tokyo St. Lukes Hospital and College of Nursing have Hermes Emblem and at same time they have the Cross as the Symbol of Christianity.

Dr. R. B. Teusler, founder of the hospital said

"This Hospital is A Living Organism Designed to Demonstrate Power Christian Love when Applied in Relief of Human Suffering"